

Y01a 太陽系外惑星命名キャンペーン 2019

山岡 均 (国立天文台・国際天文学連合アウトリーチ日本窓口)

2015年に開催された第1回に続き2019年に、国際天文学連合100周年を記念するイベントのひとつとして、世界的な太陽系外惑星命名キャンペーンが実施された。第1回は全世界じゅうから単独のサーバにアクセスして命名提案や投票を実施したが、今回は各国・地域に主星と惑星をそれぞれ1つずつ割り振り、それに対する命名提案を各国・地域で取りまとめて本部に報告し、最後に本部でまとめるという形式が取られた。前回は言語のバリエーションが高かったことを反省して、この形式が採用された。

日本では、主星・惑星それぞれの名前とともに、名前の説明文を200字以上400字以下で書くように求めた。第1回で安易な命名提案がままあったことが批判されたが、それを避けることが目的であった。提案は匿名で投稿でき、ひとりが複数の提案をすることも可能とした。この命名提案は2019年6月28日から9月4日まで収集され、結果的に命名提案の数は696件となった。

選考の方法も各国・地域で異なるものとなった。日本では、日本天文協議会の構成組織から推薦された委員が、696件を30件にまで絞り込んだ。さまざまな分野の方に参加をお願いして構成した10名の委員会によって、30件から3件が最終選考され、本部に報告された。本部での調整・確認を経て、2019年12月に最終結果が公表される運びである。

講演では、今回の手法について概説し、次回に同種のキャンペーンが実施されるときの方法論について議論したい。